

## 平成28年度 まちづくり分科会のまとめ

### ○検討テーマ

「安心して暮らせる地域づくり」

### ○検討の目的

「少子高齢化と若者の流出で人口が減少し続ける中においても、住民が元気で安心して暮らし続けるためにはどうすれば良いか」を検討して、今後の住民と行政が協働した地域づくりに役立てることを目的とした。

### ○分科会開催状況

昨年度の検討に加えて、6月から2月まで 計3回実施

※ 検討テーマをさらに5つに分けて検討を進めた。

※ 平成28年度合同分科会「栃尾の将来像」で出た意見も一部盛り込んでいる。

### ○検討内容

#### No. 1 高齢化を逆手にとったまちづくり

高齢化が進み、若い人が減ってきている現状をマイナスと捉えず、逆手に取ってまちづくりに生かすことができれば、高齢者もまちづくりの主役となり、イキイキ暮らせる地域づくりができるのではないか。

#### 【具体案】

- (1) 「高齢者が持っている知識や技術を積極的に活用」すること
    - ・ 高齢者と若者、幼児・児童が交流する機会を多く設けて、祭り、伝統芸能（神楽舞い、廣大寺踊り）、織物・手まり・油揚げの作成、昔話、歌、生活の知恵、料理などを直接指導したり、本や映像で記録を残したりして伝達する。
  - (2) 「若手が高齢者と遠慮なく一緒に活動できる環境」をつくること
    - ・ コミュニティセンターの設置により、世代を超えた交流ができる仕組みを整え、高齢者と孫が同居していない高齢者や幼児・児童にも、それぞれに利点（健康の維持、知識の伝承）があるようにする。
  - (3) 「新たな産業を創出」するための支援をすること
    - ・ 高齢者が使える時間を利用して、薬草や山菜を摘んでビジネス化すると共に、高齢者同士の交流の手段とする。
    - ・ 米や野菜の生産技術を上げ、ブランド化を図り販路の拡大する。
    - ・ 6次産業化するものとして、収穫時期が異なる米、麦、大豆等を生産し、食品加工から販売を行うことで高齢者の雇用につなげる。
- ※ ただし、高齢者だけではできないことも多いので、行政や関係機関、若手の支援も必要である。

## No. 2 高齢者世帯等の雪対策

高齢者のみの世帯が増え、屋根の雪下ろしや玄関から道路までの道付けも困難な世帯もある現状に対し、地元のボランティアを活用した支援体制や、冬期限定の集合住宅があれば、安心して暮らすことができるのではないか。

### 【具体案】

- (1) 「活用しやすいボランティア制度」の仕組みをつくる。
  - ・ 社会福祉協議会のしんせつ除雪隊を広める。(複数の区で協力するなどの仕組みが必要)
  - ・ 企業ボランティアへの補助制度を創設する。
  - ・ 気兼ねなく利用できる有償のボランティアの人もいることを周知する。
  - ・ ボランティア確保のためには、保障制度や日当等も充実する。
- (2) 「玄関前の除雪」支援の仕組みを検討する。
  - ・ 高齢者は、除雪車が残した玄関前に硬い雪を流雪溝に入れる作業が出来ない人がいるため、除雪車が残さない方法や、残しても処理(融雪や個別的な対応等)ができる方法はないか、業者、区長、行政、大学等の研究者で検討する必要がある。
- (3) 「冬期間のみの集合住宅」を設置すること
  - ・ 高齢者住宅等を活用して、越冬住宅を確保し安価で利用できる制度を創設する。

## No. 3 人口減少対策

少子化や進学・就職での若者の流出による人口減少が進んでいる現状に対し、若者が働く場所を確保することや結婚、子育て、住宅などのより良い環境づくりを進める。また、UターンやIターン者を受け入れることで、担い手不足の不安がない地域をつくることのできるのではないか。

### 【具体案】

- (1) 「若者の人口流出を減らす」ために行うこと
  - ・ 雇用の確保(6次産業の立上げ等)
  - ・ 冬場でも通勤・通学をやすくする。
  - ・ 結婚相談所開設、婚活事業(例えばバツ1女性を対象とするなど)を工夫し実施する。
  - ・ 子育てしやすい環境整備として、保育の充実や医療の提供
  - ・ 安価で雪対策の整った住宅や畑作ができる住宅地の提供と購入・リフォーム資金等の補助
  - ・ 世代交代を進め、若者の活躍の場を創出する。
- (2) 「UターンやIターン者など移住者の受け入れ」をすること
  - ・ 移住者の相談窓口の設置や受け入れ支援体制を創設する。
  - ・ 栃尾の良い所をうまくPRすることと移住を考える人への効果的な情報発信を行う。
- (3) 流出の原因について中・高校生にアンケートし考えを把握する。

## No. 4 交流人口の拡大

地域の人達が様々なことに連携して、魅力ある地域づくりを目指すことができれば、地域の人達が誇りを持つことで元気になる。また、結果として栃尾を訪れる人が増えていけば、地域経済が潤い安心して暮らせる地域をつくることができるのではないか。

### 【具体案】

- (1) 「新たな栃尾の魅力づくり」を行うこと
  - ・ 観光だけでなく、農業や祭り、織物、自然（山、川、雪）、あぶらげ等の栃尾の魅力を活用した体験型の交流イベントで誘客を進め、滞在時間を増やしリピーターも増やす。
  - ・ 地域の施設を活用し、他からのスポーツや文化・芸術などの活動を誘致する。
  - ・ 道の駅やおいらこの湯周辺に子どもが楽しめる遊び場を整備する。
- (2) 「新たな人への情報発信」を行うこと
  - ・ 道の駅に来る人や高齢者施設に入居する人とその家族などとの交流を進めて、栃尾のPRをすることで、新たな来訪者を増やす。
- (3) 「滞在者の利便性を高める」こと
  - ・ まちなかに来る人の駐車場が少ないので、丹佐跡地などの有効利用をする必要がある。
  - ・ 駐車場からイベント会場までのシャトルバス運行など、お客が入りやすいように工夫をする。
  - ・ 宿泊施設が必要

## No. 5 その他

上記1から4以外で安心して暮らすための課題としては、「サルによる農作物被害」や「耕作放棄地の拡大」などが出されたが、解決のための具体策の検討に至らなかった。

また、公共施設の経年劣化による耐震性強化と再配置については、別の機会でも検討するが主な意見を記した。

- ・ 災害に強い支所を建替えることで住民の安心感が増す。
- ・ 丹佐跡地に住民の活動や保健福祉の拠点となるコミュニティセンターや行政機能を集約した施設や既存の文化体育施設を集中させることで、住民の利便性が増す。